

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 090	提案機関名 公益財団法人 相模湾水産振興事業団
要望問題名 今後の種苗放流等について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ○ 当事業団は、水産資源の維持拡大、沿岸漁業者の経営安定を図るため、葉山町から湯河原町地先に、サザエ・アワビ・ハマグリ・トコブシ・マダイ・ヒラメ・カサゴ・メバル・マコガレイ等の種苗放流を実施している。 ○ 現在、種苗の種類、放流場所・時期は、各組合の要望により実施している。 ○ 相模湾の漁場環境等に照らして、種苗種類毎の放流場所・時期・大きさ等の調査、指導並びに放流後の育成、分布等、調査を要望する。 ○ 相模湾に適し、放流効果が期待できる新しい種苗の開発について要望する。 ○ また、水産技術センターのサザエ種苗の生産は、回復の兆しが見えており、今後、各組合の要望に応えられる、サザエ種苗の安定供給の技術開発及び調査・研究を要望する。 ○ 当事業団は、ハマグリ種苗を千葉県より購入し、小坪、鎌倉、腰越、茅ヶ崎市、平塚市漁協に放流しているが、放流種苗個体の大きさが、近年大型化し、放流数が計画以下となるのが現状である。第8次県栽培漁業基本計画では、ハマグリ種苗生産技術の開発が計画されておりますので、早急の種苗生産技術の開発を要望する	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。（提案者は記載不要）

回答機関名	水産技術センター	担当部所	栽培推進部
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 新栽培対象種の放流技術開発研究、カサゴにおける栽培漁業技術開発研究、サザエ不調対策研究 チョウセンハマグリ種苗生産基礎技術開発（新規）			
対応の内容等 ○ マダイ、ヒラメ、トラフグ、カサゴ、サザエ、アワビといった魚種を対象に、柴、安浦、松輪、城ヶ島、三崎、長井、大楠、小田原の各市場において水揚物の調査を行い、放流効果を検証しております。効果的な栽培漁業の推進にこうした調査データを活かしてまいります ○ 新しい種苗の開発としてカサゴとトラフグの標識放流を実施しており、適切な放流場所、放流尾数、放流方法について検討しております。こうした研究で得られた知見は、随時情報提供してまいります。 ○ サザエ種苗生産の不調については、当センターとしても最重要課題と位置付けています。令和2年度から、①付着する珪藻を培養管理した波板の使用、②波板に付着させる適正な幼生数の検討、③配合飼料への早期の餌付けを目的とした飼育方法の検討などを解決策として取り組みました。その結果、令和3年度には従来の生産量の回復の兆しが見えてきました。これら改善点をとりまとめ安定的な生産に必要な技術の確立を行います。 ○ 県では、第8次栽培漁業基本計画において、令和8年度を目標年度として、はまぐり類の親貝養成及び種苗生産の基礎技術開発を行うこととしました。当センターでは、令和4年度より先進県における技術開発状況の調査を実施し、令和5年度から本種の種苗生産に向けた			

基礎技術開発を進めてまいります。

解決予定年限

① 1年以内 ② 2～3年以内 ③ 4～5年以内 ④ 5～10年以内

備 考